

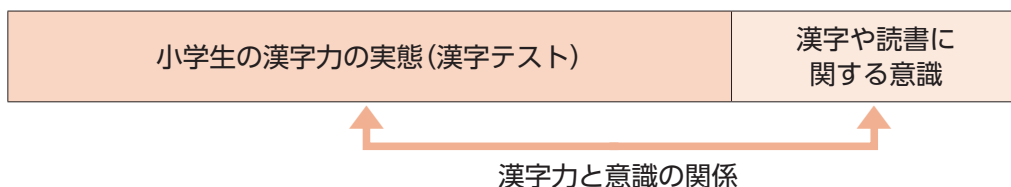
調査概要

- 調査テーマ 小学生の漢字力の実態と漢字や読書に関する意識
- 調査方法 学校通しによる漢字テスト・自記式質問紙調査
※学校に調査票を配布し、児童に解答(回答)してもらった。
- 調査時期 2013年5月中旬～7月上旬
※2007年5月初旬～6月下旬に第1回調査(2007年調査)を実施。今回は第2回調査。
- 調査対象 全国の公立小学校(21校)の2年生～6年生、公立中学校(17校)の1年生
※各学年の配当漢字について、その次の学年の児童・生徒が解答している(例えば、小学1年生の配当漢字については小学2年生が解答)。

小学校					中学校	合計
2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	
1,319	1,436	1,365	1,468	1,496	1,602	8,686

(人)
※2007年調査では、調査対象校を無作為に抽出。今回は、基本的に2007年調査と同一の学校に調査を依頼したが、一部、入れ替わりがある。その学校については、元の学校と同一または隣接の市区町村から学校規模などを考慮して有意に抽出した。

- 調査の枠組み



本調査の特徴

- 新学習指導要領(2008年告示)のもとでの小学1年生～6年生の漢字力の実態を把握できる。
- 各学年の配当漢字について、その次の学年の児童・生徒に対して調査を実施しており、各学年の配当漢字全ての書きが、次の学年でどれくらい習得されているかを把握できる。
- 意識調査も合わせて実施しており漢字力と意識の関係をみるができる。
- 2007年に旧学習指導要領(1998年告示、2003年一部改正)のもとで実施した調査との比較により、漢字や読書に関する意識の変化を明らかにできる。

目次

調査概要・本調査の特徴・分析にあたって	2
全体傾向 調査実施にあたって・今回の調査でみえてきたこと	4
小学生の漢字力の実態(漢字テスト) 調査結果	
全体まとめ	5
1年生で学習する漢字	6
2年生で学習する漢字	10
3年生で学習する漢字	15
4年生で学習する漢字	21
5年生で学習する漢字	26
6年生で学習する漢字	31
漢字や読書に関する意識 調査結果	36

● 調査内容

①小学生の漢字力の実態(漢字テスト)

・小学1年生～6年生の配当漢字1,006字について、それぞれ1つまたは複数の読み方(音読み・訓読み)で問題を出題し、その漢字を書くことができるかを調査している。

※学習指導要領では、漢字の指導に関して、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこととされている。そのため、本調査では、各学年の配当漢字を、その次の学年の児童・生徒に対して出題し、漢字を書くことができるかを調査している。漢字を読むことができるかは調査していない。

※漢字配当学年では習わない読み方でも、小学校6年間で学習する読み方は、漢字配当学年の問題として出題している。ただし、解答時間を考慮し、全ての読み方を出題していない場合もある。

※送り仮名を含むものは、送り仮名も合わせて解答してもらっている。

・採点においては、下記の13の誤答観点から正誤を判断している。

※複数の教科書の掲載漢字を分析して誤答観点を作成。教科書によって漢字の字形(とめ・はねなど)が異なる場合はどちらも正答としている。

※まったく解答がないものは無答としている。

誤答観点		具体例
1	同音異字	「暑・熱・厚」「関心・感心」などのように、音は同じでも正解に該当しないものを混濁して解答している。「千代紙・千用紙」のように音の類似による誤用も含む。
2	類似字形	「玉⇒王」「予⇒子」などのように、字の形が似たものを混濁して解答している。
3	点画の不足・過剰	「絵」などのように、点画が不足している、または余計に記されている。
4	へんとつくりの入れ替わり	「矧」などのように、正解の字に対して左右が逆になっている。
5	鏡文字	「阨」などのように、正解の字に対して反転し、鏡で映したようになっている。
6	とめ・はね	「引」などのように、とめるべきところではなっている、または、はねるべきところでとめている。
7	出る・出ない・くつつく・くつつかない	「画」「画」などのように、出るべきところが出ていない(またはその逆)、くつつくべきところがくつついていない(またはその逆)。
8	点・線の向き、長さが不正確	「顔」「牛」などのように、点の向きが逆、あるいは線の長さが短かったり、長かったりしている。
9	その他(字形のミス)	「鳥」などのように、2～8に該当しない誤りで、存在しない漢字を作っている。
10	字義の連想、類字熟語の連想	「室⇒屋」「弓⇒矢」「上⇒下」「左⇒右」などのように、字の意味から連想して、誤った解答をしている。
11	漢字の繰り返し・転倒	「勉強⇒勉勉」「先生⇒生先」などのように、熟語において繰り返しや転倒が起こっている。
12	送り仮名が不正確	「小さい⇒小いさい」「短い⇒短かい」などのように、送り仮名を誤って解答している。
13	不明	1～12に該当せず、誤答理由が判断できない。

②漢字や読書に関する意識

漢字を読むこと・書くことの得意・不得意／本を読むことの好き・嫌い／読書の習慣／読めない字があったときの対処方法／日記を書く習慣／宿題の頻度(音読・漢字の書き取り)／保護者の読書習慣／本の読み聞かせをしてもらった経験 など

分析にあたって

・漢字テストは、児童・生徒1人あたり約50～70問の出題とするため、学年によって4～7種類の調査票を作成し、実施はそれに伴い、調査対象校を4～7グループに分けて行った。ただし、集計にあたっては、どのグループが解答したかを区別せず、すべての問題を合わせて掲載した。したがって、各問題の正答率・誤答率・無答率などは、その問題に解答した児童・生徒の数値である。

・各漢字の「出題の読み」は、カタカナは「音読み」、ひらがなは「訓読み」を示している。また、出題時に濁点をつけるなどして出題した問題は、そのままの表記としている。「誤答観点出現率TOP」の数字は、上記の誤答観点の数字と対応しており、各漢字についてどの観点の誤答の比率がもっとも高いかを示している。

・本文中では、小学2年生を小2生、中学1年生を中1生のように表記している。

・本報告書で使用している百分比(%)は、有効回答数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数第二位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、数値の和が100にならない場合がある。